

アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
(Certificate Program for Professional of Educational and Learning Support:
ALPS 履修証明プログラム)

2022 年度 募集要項

「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム(ALPS 履修証明プログラム)」は、千葉大学アカデミック・リンク・センターが教育関係共同利用拠点として実施する、大学等の高等教育機関における職員らの教育・学修支援の専門性を高めることを目的とした体系的なプログラムです。本プログラムは、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして、文部科学大臣による「職業実践力育成プログラム(BP)」の認定を受けています。

このたび、2022 年度履修開始のプログラム受講生(第 6 期生)を下記の要項で募集します。

1. ALPS 履修証明プログラムの目的

本プログラムは、千葉大学アカデミック・リンク・センターが実施する、大学等の高等教育機関における職員らの教育・学修支援の専門性を高めるための、体系的な研修プログラムです。本プログラムは、当センターによる調査結果から抽出した「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」及び「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」に基づき作成されています※1。教育・学修支援に必要な知識・技能を獲得するとともに、先進事例から実践的に学ぶことを通じて、大学等に関わる方々に必要となる教育・学修支援の専門性を高めます。

※1)「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目」及び「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」の詳細は、千葉大学アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラムウェブサイト(<https://alc.chiba-u.jp/ALPS/>)をご参照ください。

2. 申込資格

以下の(1)及び(2)を満たす者。

(1) 大学を卒業し、学士の学位を有する者またはこれと同等以上の学力を有すると本センターが認めた者※2。

(2) 以下のいずれかを満たす者。

① 大学その他の高等教育機関において教育・学修支援に携わる者。

② 大学その他の高等教育機関における教育・学修支援に関心があり、将来、大学その他の高等教育機関において教育・学修支援に携わる希望がある者。

※2) 事前に本センターまでお問い合わせください。

3. 募集定員

30 名。申込書類をもとに選考の上、2022 年 10 月上旬に選考結果を連絡します。

4. 申込方法

4-1) 申込書類

申込書類は、千葉大学アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラムウェブサイト (<https://alc.chiba-u.jp/ALPS/sd.html>) よりファイルをダウンロードし、必要事項を記入してください。

4-2) 提出方法

個人情報を含む書類ですので、必ず以下の手順で提出してください。

① 申込受付

まず、申込受付アドレス alps-apply@chiba-u.jp に以下の内容でメールをお送りください。

件名:ALPS 履修証明プログラム申込(第6期生)

本文:お名前、ご所属、ご連絡先メールアドレスを明記

この時点ではまだ申込書類を送らないでください。

② 申込書類のアップロード

事務局より、申込書類のアップロード方法を、いただいたご連絡先にメールでお知らせいたします。

案内に沿って提出してください。

このアップロードを以て申込完了となります。

4-3) 申込期間

① 受付期間 2022年8月29日(月)～9月15日(木)

② アップロード期限 9月16日(金)まで

5. 修了の要件

ALPS 履修証明プログラムとして設定された 15 テーマ(計 120 時間以上)すべてにおいて、各テーマの修了要件を満たすこと。本プログラムの全テーマを修了し、千葉大学アカデミック・リンク・センター教員会議で認定された場合、学校教育法 105 条の規定に基づき、「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム」履修証明書を授与します。

6. 受講料及びその他費用について

6-1) 受講料 120,000 円

ALPS 履修証明プログラムの履修期間(1年4か月間)全体への受講料です。受講決定通知後、受講料を 2022年10月28日(金)までに振り込み願います。なお、支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

6-2) その他

対面授業は、新型コロナウイルス感染拡大の状況等をふまえて、形式(オンラインのみもしくはハイブリッド)を決定のうえ、実施いたします(8月下旬頃に web サイトで広報予定です)。対面の場合、会場は千葉大学西千葉キャンパスの予定です。交通費・宿泊費等が発生する場合は自己負担となります。

7. 今後の日程について

(1) 申込書類締切	2022年9月16日(金)
(2) 選考結果通知 (学習管理システムへのログインパスワード・IDの通知・振り込み案内の送付を含む)	2022年10月上旬
(3) 受講料(全額)の支払い(120,000円)	2022年10月28日(金)まで
(4) ターム1 eラーニング※1 開始	2022年10月14日(金)
(5) ターム1 対面授業※2	総合的・総括的テーマ 2022年10月29日(土)+オンラインミーティング※3 基盤的テーマ 2022年12月3日(土)・17日(土)
(6) ターム2 eラーニング開始	2023年2月13日(月)
(7) ターム2 対面授業	2023年5月中旬に1回+オンラインミーティング
(8) ターム3 eラーニング開始	2023年6月12日(月)
(9) ターム3 対面授業	2023年8月下旬～9月上旬に3日間+オンラインミーティング
(10) ターム4 対面授業・成果報告会・修了式	2023年12月中旬に2回+オンラインミーティング

※1 eラーニング期間などの詳細は、変更することがあります。

※2 各対面授業は新型コロナウイルス感染拡大の状況等をふまえて、形式(オンラインのみもしくはハイブリッド)を決定のうえ、実施いたします。

※3 各オンラインミーティングは、総合的・総括的テーマに係るものです。グループおよび主担当教員ごとに、この時期に日程を調整しておこないます。

8. 開講テーマについて

8-1) ALPS 履修証明プログラム 15 テーマ

【基盤的テーマ】教育・学修支援の専門性を高めるために共通に修得する内容(11 テーマ)

1) 高等教育政策と自校理解	2) カリキュラム理解	3) 学生の抱える困難の理解と支援
4) コミュニケーションと カウンセリングの基礎	5) 高等教育の国際化対応	6) 教育 IR 入門: 教育データの分析と活用
7) 教育の ICT 化と 教材開発支援	8) 学修支援と アカデミック・アドバイジング	9) 教育方法・教育評価
10) 学生・学修に対する理解	11) ラーニングコモンズの運営	

【総合的テーマ】教育・学修支援を実践するための手法を修得する内容(2 テーマ)

12) 教育・学修支援マネジメント(1)	13) 教育・学修支援マネジメント(2)
----------------------	----------------------

【総括的テーマ】教育・学修支援を推進するための具体的な課題解決を企画・実践する内容(2 テーマ)

14) プロジェクト研究・実習(1)	15) プロジェクト研究・実習(2)
--------------------	--------------------

8-2) 2022 年度生の開講テーマと日程

対面授業日程	開講テーマ
【ターム 1】 e ラーニング:2022 年 10 月 14 日(金)～ 対 面 授 業: 2022 年 10 月 29 日(土)(総合的・総括的テーマ) 12 月 3 日(土)(基盤的テーマ) 12 月 17 日(土)(基盤的テーマ) オンラインミーティング:随時(総合的・総括的テーマ)	1) 高等教育政策と自校理解 3) 学生の抱える困難の理解と支援 7) 教育の ICT 化と教材開発支援 12) 教育・学修支援マネジメント(1) 14) プロジェクト研究・実習(1)
【ターム 2】 e ラーニング:2023 年 2 月 13 日(月)～ 対 面 授 業:2023 年 5 月中旬に 1 回 オンラインミーティング:随時(総合的・総括的テーマ)	2) カリキュラム理解 6) 教育 IR 入門:教育データの分析と活用 9) 教育方法・教育評価 12) 教育・学修支援マネジメント(1) 14) プロジェクト研究・実習(1)
【ターム 3】 e ラーニング:2023 年 6 月 12 日(月)～ 対 面 授 業:2023 年 8 月下旬～9 月上旬に 3 日間 オンラインミーティング:随時(総合的・総括的テーマ)	4) コミュニケーションとカウンセリングの基礎 5) 高等教育の国際化対応 8) 学修支援とアカデミック・アドバイジング 10) 学生・学修に対する理解 11) ラーニングコモンズの運営 13) 教育・学修支援マネジメント(2) 15) プロジェクト研究・実習(2)
【ターム 4】 対 面 授 業:2023 年 12 月中旬に 2 回 オンラインミーティング:随時(総合的・総括的テーマ)	13) 教育・学修支援マネジメント(2) 15) プロジェクト研究・実習(2)

※2016 年度に実施した試行プログラム及び 2017 年度以降に実施した ALPS 公開講座の修了歴のある方は、本プログラムにおいて当該テーマの履修が免除されます(テーマによっては免除の期限があります)。ただし、受講料の減免はありません。

8-3) 2022 年度生担当教員一覧

教員名	所属・職名	専門分野
竹内 比呂也	ALC センター長、人文科学研究院・教授	図書館情報学
檜垣 泰彦	ALC 副センター長・准教授	ソフトウェア工学、情報システム学
國本 千裕	ALC 副センター長・准教授	図書館情報学
織田 雄一	国際未来教育基幹・教授	国際教育学、高等教育政策論
岡田 聡志	国際未来教育基幹・准教授	高等教育論、教育社会学、社会調査法
藤本 茂雄	国際未来教育基幹・講師	物理学
松本 暢平	国際未来教育基幹・助教	教育社会学
山本 和貫	工学研究院・准教授	物性物理学
石井 正人	人文科学研究院・教授	歴史言語学
我妻 鉄也	ALC・特任助教	比較教育学、高等教育論
岩瀬 梓	ALC・特任助教	図書館情報学

※所属機関は、いずれも千葉大学。ALC=千葉大学アカデミック・リンク・センター

※千葉大学所属教員以外に、テーマにより外部講師を予定

3) 学生の抱える困難の理解と支援	
キーワード	発達障害、身体障害、精神疾患、学生生活、社会生活
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(C) ②担当業務の内容(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C)
開講期	ターム1
コーディネータ	岡田聡志、松本暢平
目的	学修の場面や学生生活において、学生がどのような困難を抱えているか、それにどのように対応するか、学内外の組織間連携のあり方について、知識を修得し、応用することを目的とする。対面授業は、事前学習課題に基づくグループ・ワーク形式にて実施し、「学生の抱える困難」に関する履修生の問題意識を明確化するとともに、対応のあり方について分析することを目的とする。
到達目標	・発達障害などの学生の抱える困難の現代的課題を理解する。 ・具体的な学生への対応のあり方について理解し、所属大学内の取り組みに応用する。
修了要件	e ラーニング 6 時間、対面授業 2 時間(予定)をすべて受講すること

4) コミュニケーションとカウンセリングの基礎	
キーワード	学生相談、コミュニケーションスキル、カウンセリング、ケア、学生生活
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(B) ⑥人間関係の構築(B)
開講期	ターム3
コーディネータ	我妻鉄也
目的	教育・学修支援を推進する上で大切なコミュニケーション能力を涵養するとともに、カウンセリングの基礎について理解することを目的とする。対面授業では、講義に加え、ロールプレイング演習を通じて、カウンセリングの基本技法を習得することを目指す。
到達目標	・教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意義や倫理観を身につけている。 ・多様な学生への効果的なコミュニケーションのあり方について説明することができる。 ・チームで業務を進めるにあたり、自分の考えを伝えつつ、他者と合意形成を図り、協動的に業務を推進することができる。 ・他部局の職員等との連携を含めて、協働的体制を構築するための働きかけを行うことができる。
修了要件	e ラーニング 4 時間、対面授業 4 時間(予定)をすべて受講すること

5) 高等教育の国際化対応	
キーワード	学生の送り出し、学生の受け入れ、留学生支援、キャンパスのグローバル化
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(C) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(B)
開講期	ターム3
コーディネータ	織田雄一、我妻鉄也
目的	高等教育の国際化を切り口として、所属大学(あるいは特定の大学)の方針や位置づけ、適切な学生対応について考える能力を身につけることを目的とする。対面授業では、事前課題に基づくグループワークを通じて、大学における留学生支援に関する理解を深め、留学生に対する効果的なコミュニケーションの方法を身に付けることを目指す。
到達目標	・所属大学の国際化政策と教育課程や授業内容のつながりについて理解している。 ・国内・海外の大学の国際化対応の現状について理解し、その上で所属大学の位置付けを把握する。 ・留学生を含む多様な学生への効果的なコミュニケーションのあり方について説明することができる。
修了要件	e ラーニング 5 時間、対面授業 3 時間(予定)をすべて受講すること

6) 教育 IR 入門：教育データの分析と活用	
キーワード	基礎集計、記述統計、アンケート調査の設計、データベース
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(B) ③大学についての知識(C)
開講期	ターム 2
コーディネータ	岡田聡志、松本暢平
目的	教育に関するデータの収集・分析・報告・活用を通じて、学生や所属大学の実態を理解し、改善に活かすための方法や技術を修得することを目的とする。より具体的には、データを取り扱うための基本的な仕組みや分析方法、データ収集のためのアンケート調査の方法論、関連する法制度や実践事例等を取り扱うことにより、履修生自身の実践に結び付け、活用できるようになることを狙いとする。
到達目標	・様々なデータの特徴と基本的なデータの分析手法を理解する。 ・教育・学修支援に関するデータを分析し、その改善や設計に利用することができる。
修了要件	e ラーニング 8 時間をすべて受講し、所定の課題を提出すること

7) 教育の ICT 化と教材開発支援	
キーワード	教材開発、著作権、著作物、コンテンツ
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(C) ③大学についての知識(B) ⑥人間関係の構築(C)
開講期	ターム 1
コーディネータ	檜垣泰彦、藤本茂雄
目的	コロナ禍、さらにはポストコロナの状況を見据え、高等教育における ICT(情報通信技術)を活用した教育とそのための教材開発の意義、教材開発支援のために必要となる著作権の基本や大学における教材開発や教材開発支援の実践事例について理解する。
到達目標	・ポストコロナの新しい常態における、ICT を活用した教材開発支援の意義について理解し、それを説明することができる。 ・著作物を教材として利用する際に留意すべき著作権の基本や授業目的公衆送信補償金制度について理解し、教員など教材作成者に助言できる。 ・自分自身で比較的簡易な教材の作成ができる。
修了要件	e ラーニング 6 時間、対面授業 2 時間(予定)をすべて受講すること

8) 学修支援とアカデミック・アドバイジング	
キーワード	アカデミック・アドバイジング、学習者、助言者
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C)
開講期	ターム 3
コーディネータ	竹内比呂也、我妻鉄也
目的	学修支援とアカデミック・アドバイジングの基本的な考え方と具体的な実践の理解を通じて、個別的な学修支援やアカデミック・アドバイジングの際に留意すべき点などを理解する。対面授業では、事前課題やケースによるワークショップを通じたアカデミック・アドバイジングに関する理解に基づいて、他者との協働を目指す。
到達目標	・アカデミック・アドバイジングについて理解し、説明できる。 ・個々の学生に対する学修支援について理解し、その際の留意点を説明できる。
修了要件	e ラーニング 5 時間、対面授業 3 時間(予定)をすべて受講すること

9)教育方法・教育評価	
キーワード	アクティブラーニング、真正の評価、評価の妥当性、信頼性
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ③大学についての知識(B) ⑥人間関係の構築(C)
開講期	ターム2
コーディネータ	松本暢平、岡田聡志
目的	教育方法・教育評価の基本的な考え方と具体的な事例の理解を通じて、教育支援や学修支援との関わりや教職協働のあり方を検討し、設計・再構成することを目的とする。
到達目標	・様々な教育方法・教育評価の特徴とその背景について理解する。 ・具体的な教育方法・教育評価が導入される文脈や専門分野との関係性について理解する。 ・教育方法・教育評価の現代的課題を教育・学修支援の取り組みと関係づける。
修了要件	eラーニング 6.5 時間、対面授業 1.5 時間(予定)をすべて受講し、所定の課題を提出すること

10)学生・学修に対する理解	
キーワード	学生生活、大学生の変化、学習行動、学修支援
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(C) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C)
開講期	ターム3
コーディネータ	岡田聡志、松本暢平
目的	大学における教育・学修支援の専門性を高めるため、学生を取り巻く状況と、学生の学習のあり方について理解する。本テーマでは、学生の多様化が進む一方で、学修の質の向上が求められていることを前提に、①大学生の変化と学生を取り巻く状況の変化、②大学生の学習の状況、について学習する。対面授業では、グループワーク形式にて、特定の文脈を想定し、学生の現状を分析し具体的な改善方策を計画することを目的とする。
到達目標	・学生の変化と学生を取り巻く状況の変化を理解し、学生の社会的地位やイメージについて時代の変化を説明することができる。 ・大学での学習、大学生の学習状況について、現状と課題を説明することができる。
修了要件	eラーニング 7 時間、対面授業 1 時間(予定)をすべて受講すること

11)ラーニングコモنزの運営	
キーワード	ラーニングコモنز、大学図書館、図書館員、ピアサポート、学習空間
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(B)
開講期	ターム3
コーディネータ	國本千裕、岩瀬梓
目的	アクティブラーニングを促進し、学修の質を高める効果をもたらす学習環境としてのラーニングコモنزの特性について理解するとともに、教育・学修支援との関わりやラーニングコモنزにおける教職協働などについて、具体的な事例の学習を通じて理解する。対面授業では、国内・海外における先進的な学習空間の事例もふまえながら、実際に、ラーニングコモنز及び学習支援サービスを設計・運営した経験をもつ教職員を交えたワークショップを行い、その実践上の課題等について理解を深める。
到達目標	・ラーニングコモنزが教育、学習に関しどのような効果を持つかを理解し、説明できる。 ・ラーニングコモنزにおける学生向けの活動の計画立案、実施について説明できる。
修了要件	eラーニング 5 時間、対面授業 3 時間(予定)をすべて受講すること

12) 教育・学修支援マネジメント(1)	
キーワード	教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、グループワーク
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(C) ②担当業務の内容(C) ③大学についての知識(C) ④学生への対応(C) ⑤担当業務への取り組み方(C) ⑥人間関係の構築(C)
開講期	ターム1～2
コーディネータ	全担当教員
目的	教育・学修支援を実践するための手法を修得することを目的とする。
到達目標	教育・学修支援の専門性に必要な能力項目に関わる基本的な知識を包括的に理解している。
修了要件	対面授業及びオンラインミーティング計8時間(予定)を受講し、グループワークに参加すること

13) 教育・学修支援マネジメント(2)	
キーワード	教育支援、学修支援、学生支援、問題解決学習、グループワーク
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(B) ②担当業務の内容(B) ③大学についての知識(B) ④学生への対応(B) ⑤担当業務への取り組み方(B) ⑥人間関係の構築(B)
開講期	ターム3～4
コーディネータ	全担当教員
目的	教育・学修支援を実践するための手法を修得することを目的とする。
到達目標	教育・学修支援の専門性に必要な能力項目に関わる基本的な知識を身につけており、その知識を他者に説明することができる。
修了要件	対面授業及びオンラインミーティング計8時間(予定)を受講し、グループワークに参加するとともに、テーマ修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと
特記事項	本テーマを受講するには、「教育・学修支援マネジメント(1)」を修了していることが前提となる。

14) プロジェクト研究・実習(1)	
キーワード	教育支援、学修支援、学生支援、個人研究、問題解決学習
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(A) ②担当業務の内容(A) ③大学についての知識(A) ④学生への対応(A) ⑤担当業務への取り組み方(A) ⑥人間関係の構築(A)
開講期	ターム1～2
コーディネータ	全担当教員
目的	本テーマでは、実際に、教育・学修支援を推進する際に生じる諸問題について、個人的な課題を設定し、クリティカルに追求し、具体的課題解決を検討、企画・実践する能力を身につけることを目的とする。
到達目標	これまでに身につけた教育・学修支援に関わる知識・スキルを実践の場の問題解決に応用することができる。
修了要件	対面授業及びオンラインミーティングにて、指導担当者の指導を受けること

15) プロジェクト研究・実習(2)	
キーワード	教育支援、学修支援、学生支援、実践、実習
ルーブリックとの対応	①学生・学修・教育支援の内容(A) ②担当業務の内容(A) ③大学についての知識(A) ④学生への対応(A) ⑤担当業務への取り組み方(A) ⑥人間関係の構築(A)
開講期	ターム3~4
コーディネータ	全担当教員
目的	本テーマでは、「プロジェクト研究・実習(1)」での研究・実習を、さらに深め、設定した個人的な課題について、クリティカルに追求し、具体的課題解決を検討、企画・実践する能力を身につけることを目的とする。
到達目標	・これまでに身につけた教育・学修支援に関わる知識・スキルを実践の場の問題解決に応用することができる。 ・これまでの研究・実習の成果を取りまとめ、発信することができる。
修了要件	担当教員指導の下、研究・実習を進め、テーマ修了時に実施予定の成果報告会で発表を行うこと
特記事項	本テーマを受講するには、「プロジェクト研究・実習(1)」を修了していることが前提となる。

9. 対面授業の欠席について

急病や業務の関係でやむを得ず対面授業を欠席せざるを得ないときは、「欠席届兼個別対応申請書」を提出していただきます。当センターで個別対応の可否を判断し個別対応が認められた場合は、一部のテーマでは、対面授業の動画の視聴及び追加課題等により、テーマの修了認定が行われます。ただし、すべてのテーマが対応しているわけではありません。

10. プログラムの休止・辞退・除籍について

本プログラムを休止または辞退する場合は、所定の手続きが必要です。

本プログラムは学修時間 120 時間の履修証明プログラムであり、修了には 1 年 4 か月の履修期間が求められます。最大履修期間は休止期間を含め 4 年となっています。休止後に履修を再開した場合も、履修開始から 4 年目の年度末までに全テーマを修了することが求められます。また、履修開始から 4 年目の年度末までに全テーマを修了できない場合や、当センターで不適格と判断された場合は、除籍となります。

なお、いかなる場合も支払われた受講料は返金いたしません。

11. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)について

本プログラムは、厚生労働省「教育訓練給付制度」の専門実践教育訓練給付対象講座です。

教育訓練給付金を受給する場合は、受講開始日の 1 か月前までに、厚生労働大臣が定めるキャリアコンサルタントによる訓練前コンサルティングを受け「ジョブカード」を作成し、公共職業安定所(ハローワーク)の窓口へ必要書類を提出(受給資格確認申請)して、「受給資格者証」を取得する必要があります。

詳しくは、本人の住居所を管轄する公共職業安定所(ハローワーク)へお問い合わせください。

12. 問い合わせ先

千葉大学アカデミック・リンク・センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

TEL:043-290-2891 Mail:alps-info@chiba-u.jp